全農薬通報

No287　　平成 25 年10月 20 日

目　　次

◎組合からのお知らせ
・組合員の動き等
・農薬安全コンサルタントリーダー研修

◎主な行事予定
・全国農薬協同組合
・植物防疫関係団体

◎お知らせ
・新刊本紹介「農薬製剤作用機構分類一覧」
・ＧＬＯＢＡＬＧＡＰ日本大会のお知らせ

◎全農薬ひろば
・ダリア

全国農薬協同組合

〒101-0047　東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル
電話 03-3254-4171　　FAX. 03-3256-0980
http//www.znouyaku.or. jp　E-mail：info@znouyaku.or.jp

組合からのお知らせ

１．全農薬受発注システム利用メーカー協議会

（１）「分科会」

ー仕切書(納品書)送付の代替機能について

・日時：平成２５年８月２３日(金)、１３：３０～１５：００

・場所：全国農薬協同組合９Ｆ会議室

・議題：組合員との仕切書(納品書)の必要性、ﾍﾟｰﾊﾟｰﾚｽ化に対する情報交換・意見交換等

・出席者：組合員（カネコ種苗株式会社白沢様、株式会社栗原弁天堂長嶋様、大沢様）
全農薬受発注システム利用メーカー（５社）、全農薬受発注センター、事務局（堀江）

（２）「協議会」

・日時：平成２５年８月２３日(金)、１５：３０～１６：３０

・場所：全国農薬協同組合９Ｆ会議室

・議題：全農薬受発注システムの利用促進計画について、「仕切り書送付の代替機能」についての情報交換会及び分科会報告について

・出席者：
全農薬受発注システム利用メーカー（９社）、全農薬受発注センター、事務局（堀江）

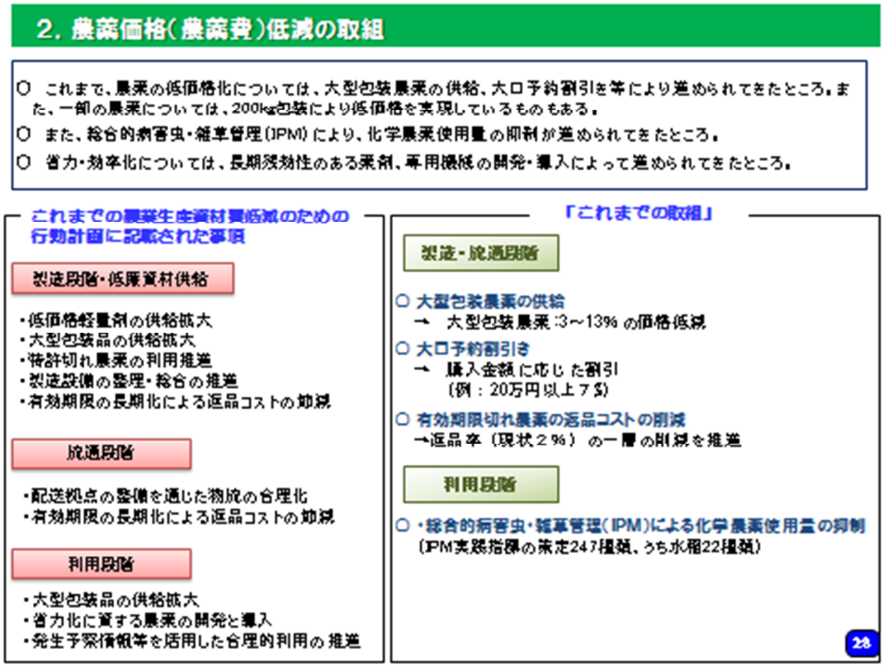
２．「稲作技術の新展望に関する関係者からの意見聴取」の開催

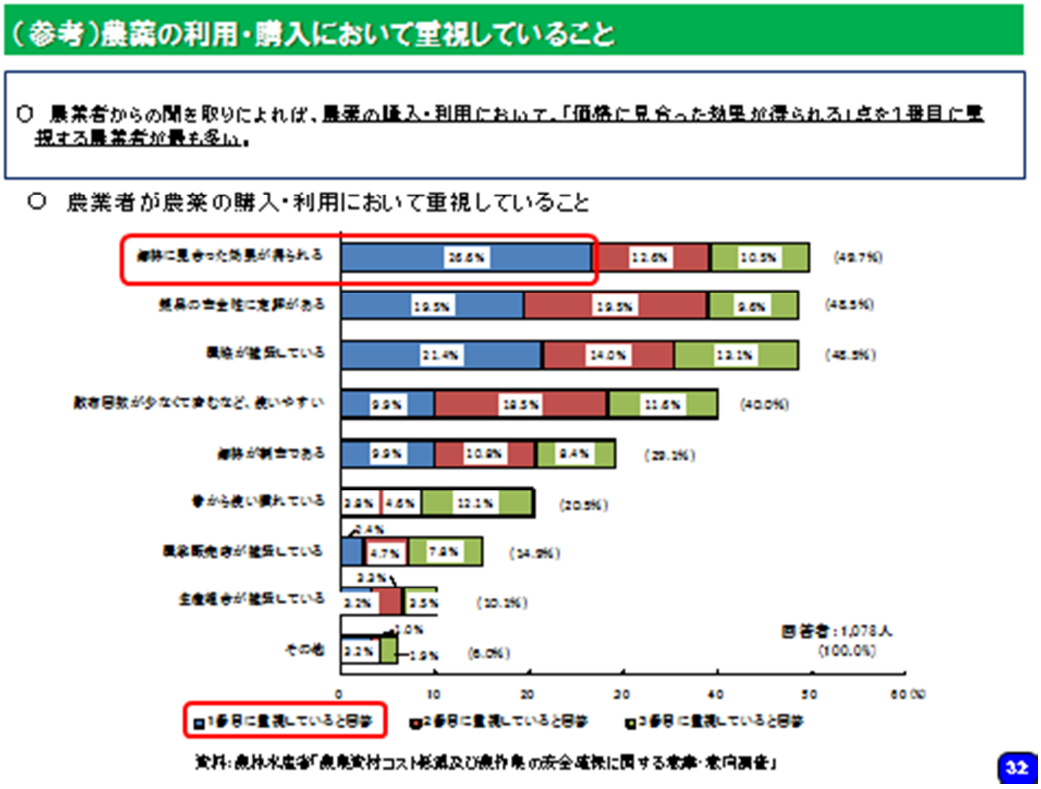
・日時：平成２５年８月２９日（木）、１３：３０～１６：３０

・場所：農林水産省第２特別会議室

・議題：農業機械、資材（肥料・農薬・燃料）、乾燥調製等

・出席者：宮坂技術顧問





（出典：農林水産省資料）

3．第１回農薬安全コンサルタントリーダー研修会

・「開催目的」

農薬安全コンサルタントの技術の向上と商系組織の技術販売体制の強化ならびに組合活動の活性化を図るために農薬安全コンサルタントリーダーを養成する。

・日時：平成２５年９月４日(水)１１：００～９月６日(金)１６：００

・場所：全国農薬協同組合９Ｆ会議室

別記にて詳細紹介

4．農薬シンポジウム IN 高知

・日時：平成２５年９月１２日(木)１３：３０～１６：３０

・場所：サンピアセリーズ　レインボーホール　　〒781-8101　高知市高須砂地 155

・第一部「農薬の役割と安全性について」講師　千葉大学名誉教授　本山直樹様

第二部パネルディスカッション「環境と調和した農産物生産について」

[コーディネーター]高知県農業振興部環境農業推進課　主幹　朝比奈　泰史様

[パネリスト]

千葉大学名誉教授　本山直樹先生

高知県農業振興部環境農業推進課　専門技術員　古味　一洋様

株式会社赤岡青果市場　営農相談員　久武　康男様

瀬戸消費者グループ　代表　中澤　須美様

ピーマン生産農家/JA 土佐香美園芸部ピーマン部会　部会長　竹内　淳様

・主催：全国農薬安全指導者協議会

・後援：高知県、農薬工業会関西支部、高知県農薬卸協同組合

写真は、開会に当たり主催者を代表し、挨拶する田中康貴全国農薬安全指導者協議会会長
第１部「農薬の役割と安全性について」講演する本山先生と会場の様子。

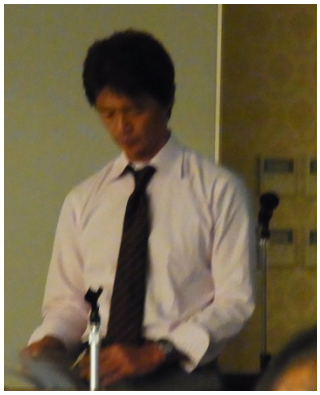
○写真は会場から質問する消費者とそれに答える本山先生

○「高知県における総合的病害虫管理技術（ＩＰＭ）の導入について」高知県農業振興部環境農業推進課古味一洋病害虫防除担当専門技術員から、詳細な講演があった。

高知県の施設ナス科果菜類で天敵利用が進んだ理由として、①省力化②低コスト化③薬剤抵抗性の発現した害虫対策　④関係機関の連携　⑤虫媒性ウイルス病の発生がない。等のため旨く出来た。とのこと。また、これからの高知県の方針は「天敵を含めた IPM 技術を全作物に展開したい。と講演された。

高知県の IPM については、日本中が注目している。キュウリでの IPM はここが注目：ウイルスの媒介虫は、天敵で防除するのではなく、薬剤で素早く防除したい。しかし、効果のある薬剤は３剤のみ。そこで、高知県では、スワルロスキーカブリダニと薬剤あるいは、タバコカスミカメを併用して効果を上げている。

第２部パネルディスカッション「環境と調和した農産物生産について」



環境と調和した農産物生産についてパネルディスカッションの冒頭、病害虫の専門技術員の古味さんから高知県での IPM について、次のような紹介があった。高知県では、化学農薬の過度使用に頼った農業生産をしないといった目的から天敵、生き物を使って害虫を防除する技術が日本でも進んだ県です。ナスの産地として知られている高知県では、他県に先駆けて 1992 年から交配昆虫、97 年から天敵試験が開始。99 年から IPM 技術の本格的な導入が始まった。　2000 年からは県の出先機関が、農業者や JA などの関係機関と一体となって取り組み、国内の施設園芸では最も進んだ IPM 技術を持つ産地となった。

その後、施設ピーマン・シシトウ、施設ミョウガなどを中心に県内全域の施設園芸産地で天敵利用の技術が進展した。と説明があった。

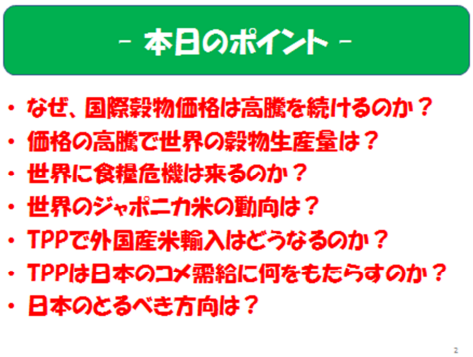
消費者代表のパネリストからは農家との関係が疎遠になり現場でどんな農薬をどのように使っているのか不安だ。とか、生産者代表からは、防除作業が農家の大きな負担となっている。天敵だけで防除が出来るわけでないので、どうしても化学農薬を使わなければ消費者が求めるような農産物は生産が出来ない。「奇跡のリンゴ」という映画が最近上映されたが、高知県でも NPO 法人がそれをまねてミカン栽培を試みた事例があるが、これはミカンとは言えない。とても商品になるようなものではなく、販売出来る農産物を作るのにはどうしても最低限の農薬は必要であることを消費者の皆さんも理解して欲しい。等の意見が出され、お互いに情報交換をして情報共有することが何よりも必要との結論となった。閉会の挨拶をする安全協高知県幹事の松村さん。ご苦労様でした。

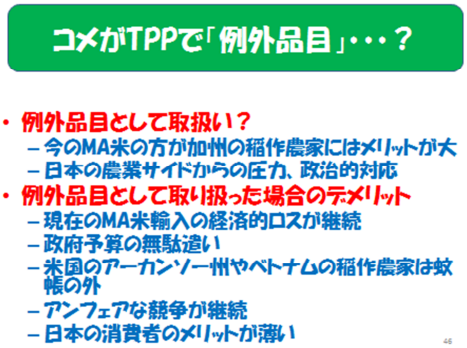
５．(社)全肥商連第３回定時社員総会に伴う「特別講演会」

・日時：平成２５年９月１３日（金）１５：１５～１９：００

・場所：東京ガーデンパレス

・特別講演会：「世界の食料需給と日本農業の方向性～コメを中心に考える～」





TPP 後の日本のとるべき方向は？①国全体から見れば TPP でコメの完全自由化　②日本の農業の非効率性を改革　③海外との貿易でより強固な食料安全保障　④海外における生産拠点の拡大　⑤海外への技術支援⑥海外への投資。が必要。と、九州大学大学院農学研究院の伊東正一先生のユーモア、示唆に富んだある講演を聴いた。

・出席者：事務局（堀江専務、宮坂技術顧問）

６．農薬工業会「農薬ゼミ」共催団体打合せ会議

・日時：平成２５年９月２０日(金)１６：００～１７：００

・場所：農薬工業会

・議事：

（１）「農薬ゼミ」の実施報告及び開催計画について

（２）農薬工業会の広報関連活動について

（３）その他

・出席者：事務局（堀江専務、宮坂技術顧問）

７．シンポジウム「転機に立つ国内農業と植物防疫の展開方向」

主催：一般社団法人　日本植物防疫協会

・日時：平成２５年９月１９日（木)、１３：００～１７：３０

・場所：日本教育会館

・講演：

（１）　我が国農業の展開方向をどう見るか

ＪＡ全中　常務理事　大西　茂志　氏

（２）　今後求められる病害虫防除技術とは何か

(独)農研機構中央農業総合研究センター

病害虫研究領域長　本多　健一郎　氏

（３）　世界の農薬マーケットの展望

日本農薬株式会社　取締役常務執行役員　細田　秀治　氏

・総合討論

・出席者：事務局（堀江専務、宮坂技術顧）

8.　　第２８回報農会シンポジウム「植物保護ハイビジョンー２０１３」

―生産環境の変化と作物保護技術の再評価―

・日時：平成２５年９月２６日(木)１０：１５～１７：００

・場所：「北とぴあ」つつじホール

・講演：

侵入雑草の防除対策　宇都宮大学・雑草化学研究センター　米山　弘一氏

宮城県におけるイネばか苗病発生の現状と防除対策の検討

宮城県古川農業試験場　鈴木　智貴氏

育苗箱施薬の病害虫防除効果の再評価

鹿児島県農業開発総合センター　井上　栄明氏

ＥＵにおける農薬事情　　農薬工業会　横田　篤宣氏

国内花卉(菊)の生産動向と課題　　イシグロ農材株式会社　古橋　友雄氏

・総合討論

・功績者表彰式　１７：００～

開催場所　「北とぴあ」１６Ｆ(天覧の間)

第２８回功労賞受賞者（敬称略）

東　勝千代　職歴　和歌山県農業試験場、社団法人和歌山県植物防疫協会

多久田　達雄　職歴　島根県農業試験場、同県農業改良普及センター

吉田　桂輔　職歴　福岡県農業試験場、同県農林部農業技術課

● 来賓大友植物防疫課長あいさつ

東さま、多久田さま、吉田さまの御三名の方々、この度は報農会の功績者表彰を受賞され、誠におめでとう御座います。私は、農林水産省消費・安全局植物防疫課長の大友と申します。植物防疫課を代表しまして一言ご挨拶を申し上げます。功労賞を受賞されたお三方は、それぞれの分野において、長年植物防疫事業に携われ、病害虫防除体制の確立、業界の発展、地域の植物防疫行政や技術の普及やご指導等に多大なるご貢献をされたと聞いています。今後も益々ご健勝でご活躍されますことを期待しますとともに，長年にわたり植物防疫事業にご貢献いただきありがとう御座いました。また、報農会におかれては、植物防疫に関する学術及び技術の振興に関する事業と致しまして、専門家の育成や関係学会等が主催する研究会、シンポジウム等の開催など学術・技術交流の援助、そして本日のように植物防疫の発展に寄与されているところ誠に大きいものがあります。報農会の理事長をはじめ会の運営に携わる皆さまに感謝申し上げます。

以上、簡単では御座いますが私の祝辞の挨拶とさせていただきます。本日は本当におめでとう御座いました。と、大友植物防疫課長からの挨拶があった。

９．　第７９回植物防疫研修会

・日時：平成２５年９月３０日(月)～１０月４日(金)

・場所：一般社団法人　日本植物防疫協会本部事務所Ｂ１会議室

全農薬からは27名が参加した。全農薬の組合員からは(株)石黒製薬所の岩村知美さんが満点を取り、今回から新たに設けられた、研修委員長から褒章のボールペンが授与された。残念ながら一人の組合員が不合格となった。

今回の研修生は６２名で，試験成績は満点が２名、いずれも女性で（内訳：工業会１名、全農薬１名）、平均点は88.7点と高得点であった。

岩村さんおめでとう御座います。

１０．　第１４回ＩＥＴセミナー

・日時：平成２５年１０月４日(金)１４：００～１７；：５０

・場所：アルカデイア市ヶ谷(私学会館)

・講演（１４：０５～１６：０５）：

①　「作物残留に関する諸問題やその対応等について」

農林水産省消費・安全局農産安全管理課　農薬対策室課長補佐　入江　真理　氏

②　「食品中残留農薬と調理加工」

明治薬科大学薬学教育研究センター　教授　永山　敏廣　氏

・発表（１６：２０～１７：５０）：

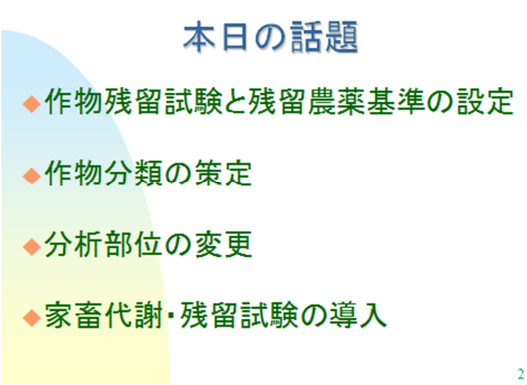
①　「残留性調査事例からみた作物残留関連試験の現状と課題」

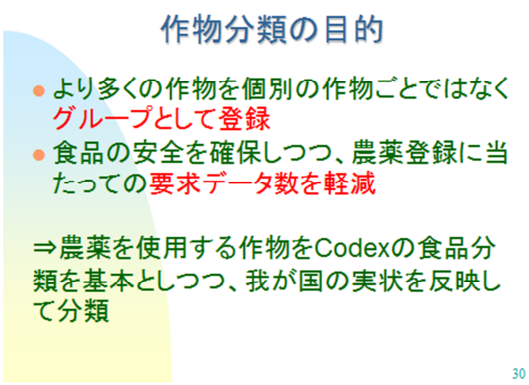
（一財）残留農薬研究所　化学部　残留第１研究室長　飯島　和昭　氏

②　「加工および調理後の農産物中残留農薬の調査事例」

（一財）残留農薬研究所　化学部　残留第２研究室長　坂　真智子　氏

・出席者：事務局（宮坂技術顧問）





農水省入江課長補佐の講演資料の一部から引用

組合員の動き等

１．全農薬支部長及び農薬卸商理事長交替（敬称略）

【佐賀県】

（支部長交代）

（旧）高島富士美　⇒　（新）濱口政志（グリーンテック株式会社佐賀営業所）

（理事長交代）

佐賀県農薬卸販売組合（理事長）

（旧）高島富士美　⇒　（新）友田光（九州日紅株式会社佐賀支店）

２．安全協幹事交代

【滋賀県】

（旧）山田浩之　⇒　（新）北脇三郎　（株式会社高岡屋愛知川営業所）

３．組合員営業所移転

・組合員名：株式会社　池田　鷹巣営業所（新所在地）

〒０１８－３３０１　秋田県北秋田市綴子字田中大道下１８９－４

℡０１８６－８４－８１０１（変更なし）、FAX０１８６－８４－８１０３（変更なし）

主な行事予定

［全国農薬協同組合］

（平成２５年度行事日程）

１０月２５日（金）監査会

１１月１９日（火）第２６４回理事会

１１月２０日（水）第４８回通常総会・第３６回全国集会・情報交換会（海運ｸﾗﾌﾞ）

１２月１１日（水）第２６５回理事会

平成２５年度植物防疫地区協議会（植防ブロック会議）

ブロック	開　催　月　日	会　　場
北海道・東北	11 月 14 日 13:30～17:00,15 日 9:00～12:00	11/14ﾊｰﾈﾙ仙台,11/15東北農政局
関東	11 月 26 日 13:30～18:00,27 日 10:30～16:00	さいたま新都心合同庁舎２号館
北陸	11 月 21 日 13:30～17:15,22 日 9:00～12:00	金沢広坂合同庁舎大会議室
東海・近畿	11 月 7 日 13:30～17:30,8 日 9:00～12:00	ルビノ京都堀川
中国・四国	11 月 12 日 13:00～17:00,13 日 9:00～12:00	ホテルニュータナカ
九州・沖縄	11 月 14 日 13:00～17:00,15 日 9:00～12:00	九州農政局

全農薬平成２６年度地区会議

地　区	月日(曜日)	開催時間	会　　場
中国・四国	2/4(火)	10:30～17:00	まきび会館（岡山市）
近畿	2/5(水)	10:30～17:00	大阪ガーデンパレス（大阪市）
北陸	2/6(木)	10:30～17:00	石川県農業共済会館（金沢市）
東海	2/12(水)	10:30～17:00	メルパルク名古屋（名古屋市）
九州	2/14(金)	10:30～17:00	火の国ハイツ(熊本市)
東北	2/18(火)	10:30～17:00	ﾒﾄﾛﾎﾟﾘﾀﾝ盛岡ﾆｭｰｳｲﾝｸﾞ（盛岡市）
関東・甲信越	2/19(水)	10:30～17:00	東京ガーデンパレス（東京都）
北海道	2/20(木)	10:30～17:00	札幌総合卸センター（札幌市）

関係団体行事

農薬工業会「虫供養」

・日時：平成２５年１１月１４日（木）、１６：００～

・場所：浅草寺、都立産業貿易センター台東館８階　上野精養軒

・出席者：青木理事長、事務局（堀江専務理事、宮坂技術顧問）

農薬安全コンサルタントリーダー研修

第１回農薬安全コンサルタントリーダー研修会報告

農薬安全コンサルタントリーダー研修会が９月４日（水）から６日（金）まで３日間の日程で、全国農薬協同組合（全農薬）ビル、９階会議室において開催されました。

農薬安全コンサルタントリーダー研修とは、簡単に言うと、植物防疫研修会を修了し試験に合格した者を全国農薬協同組合の理事長が認定する資格、「農薬安全コンサルタント」のレベルアップ研修です。

研修は、農薬安全コンサルタントの技術向上と商系組織の技術販売体制の強化、並びに全農薬組合活動の活性化を図るために新たな農薬安全コンサルタントリーダー制度を設け、これを養成する目的で開催されました。　参加者は定員 30 名で全国各地から研修生が参集しました。

全農薬が、「農薬安全コンサルタントリーダー研修会」を始めるきっかけは、青木理事長が「これから我が国の農薬を取り巻く状況も、欧州のように厳しくなることが想定されるので病害虫・雑草診断技術を身につけ、少ない農薬でも効果的に病害虫・雑草に対し防除が出来るよう、作物の病害虫・雑草防除の処方箋をお医者さんのように書ける専門家を育てなければいけない。そのために、現在の農薬安全コンサルタントのレベルアップ研修を実施したい」。と昨年（平成 24 年）９月の全農薬理事会に提案した事に始まります。

理事会もこの提案を満場一致で了解し、平成２５年 2 月の全農薬地区会議から農薬安全コンサルタントを対象とした、「現場で役立つ技術研修」を実施しております。

具体的には、地区会議では講義を 2 題用意し、講師は本部から１人を推薦し、中央段階で話題になっているテーマでの講義を、もう一人の講師には地元の試験場等の先生で、地域で問題になっている病害虫・雑草防除問題等に焦点を当て、その解決に役立つ講義をして頂きました。今後もこのスタイルで継続することにしております。

今回の「農薬安全コンサルタントリーダー」の資格は、地区会議で行われる「現場に役立つ技術講義」と全農薬本部で開催される「農薬安全コンサルタントリーダー研修会」の 2 本立てで実施しております。「現場に役立つ技術研修」を受講すると 2 ポイント、「農薬安全コンサルタントリーダー研修会」を受講して試験に合格すると６ポイント獲得できます。「農薬安全コンサルタントリーダー」になるには、全部で 10 ポイントを獲得し、全農薬が実施する試験に合格する必要があります。

全農薬に「農薬安全コンサルタントリーダーが誕生するのは、平成 26 年 2 月の全農薬地区会議以降となります。なお、「農薬安全コンサルタントリーダー」になるには、「現場に役立つ技術研修」だけを受講し、１０ポイント獲得した上で、全農薬が実施する試験に合格した者を認定する方向で現在検討中であります。

いずれに致しましても、これから「農薬安全コンサルタントリーダー」を質の高いものにしていくために皆さまのお力沿いをお願いします。

今回は、全農薬会議室を使って開催された、第 1 回「農薬安全コンサルタントリーダー研修会」についてご報告いたします。

まず、開会式で青木理事長から TPP 決着後、想定される農業の方向性についてお話があり、とりわけ農薬卸業は、今のままの様な商売をしていたのでは TPP をはじめ益々厳しさ増す農薬業界にあって「農薬卸」は生き残ることは出来ない。高齢化農業と、大型農家の両方に対応出来、頼りにされる「農薬卸業」の姿を模索していく必要がある。そのために先ずは技術力を持った農薬卸の存在が必要不可欠であり、現在の「農薬安全コンサルタント」のレベルを高める事が喫緊の課題である。

そのパイオニアとなる今回の研修生は、第一期生としてしっかり自覚して頂き、自分の知識となるよう頑張って欲しい。と挨拶された。

挨拶する青木理事長

青木理事長の挨拶に熱心に耳を傾ける研修生。

●続いて挨拶する田中全国農薬安全指導者協議会（安全協）会長

●研修時間割

農薬コンサルタントリーダー研修時間割

全国農薬協同組合

日付/時間	9:00　10:00	11:00　12:00	昼休み	13:00　14:20	14:30　15:50	16:00　17:20
９月４日（水）		受付 オリエンテーション 開講式	昼食	植物防疫行政と関係法規について （黒谷博史） 植物防疫課	農薬行政と農薬関係法規について （楠川雅史） 農薬対策室	現場で役立つ野菜の病害診断　（植草秀敏） 神奈川県農業技術センター三浦半島地区事務所
９月５日（木）	農薬の毒性評価と安全性評価について （原田孝則） 残留農薬研究所	農薬の毒性評価と安全性評価について （原田孝則） 残留農薬研究所	昼食	水稲害虫と防除 （平井一男）	水稲病害と防除 （小泉信三） （独）国際協力機構筑波国際センター	水稲雑草と防除 （橋本仁一） （公益財団法人）植物調節剤研究協会
９月６日（金）	果樹の害虫と防除（井原史雄） 農研機構果樹試験所	果樹の病害と防除 （中畝良二） 農研機構果樹試験所	昼食	現場に役立つ害虫診断　（鈴木　誠） 神奈川県かながわ農業アカデミー	試験（※６０分）	修了式 解散

※　一コマの研修時間は 80 分、休憩時間は 10 分　、講師の敬称略

研修実施に当たり、要望を聞いた結果、「現場で役立つ病害虫・雑草の見分け方や防除法」、「具体的な農薬の毒性評価と安全性評価」の講義を受けたいとの声が多く挙げられました。

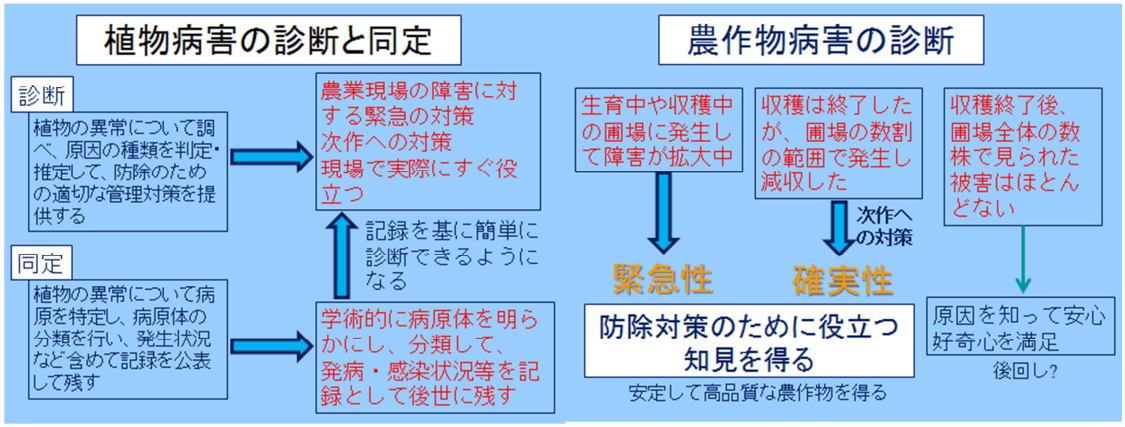
事務局ではこれらの要望を組み込んだ上記カリキュラムを上記「研修時間割」の通り作成し、

初日の１時間目は、植物防疫行政は植物防疫課の黒谷課長補佐から植物防疫法の解説と発生予察情報の読み方等を中心に具体例をあげて講義して頂きました。

また、２時間目の農薬行政については、農薬対策室の楠川課長補佐から具体的に現場で問題になっている農薬取締法上の案件について、農薬取締法など関係法令の解釈を含めて講義していただきました。

現場に役立つ野菜・花きの病害診断について

現場に役立つ野菜・花きの病害診断については、神奈川県農業技術センター三浦半島地区事務所の植草秀敏先生に、80 分の講義の中で先生が野菜病害の診断方法について、原因がカビ、バクテリア、ウイルスなどかを、現場で簡単に識別できる具体的な病害についてスライドを用いながら、病害の見分け方から適切な農薬の選定法、防除方法などまで講義していただきました。特に時間的な制約があるなかで、膨大な何十年も培ってきたノウハウを提供いただき、感謝を申し上げる次第です。



農薬の安全性評価について

研修生の関心の高かった農薬の安全性評価については、一般財団法人残留農薬研究所の毒性学の専門家である原田孝則理事にお願いし講義時間を２コマに増やし、詳しく講義していただきました。講義中にアクシデントが発生し、冷房がストップしご講師の先生及び研修生の皆さまには大変ご迷惑をお掛けしました。

（クーラーが故障し蒸し風呂のような中でもネクタイを締め講義を続行する原田先生。暑い中ご苦労様でした。）

ピレスロイド系殺虫剤の特性と毒性

特 性:
蚊取り線香に使われる除虫菊の成分ピレトリンから発展し、低毒性で蓄積性がないため家庭用殺虫剤の主成分として利用。薬理効果の標的部位は、シナプス前線維末端のイオンチャネル（NA^+,Ca^{2+}）でDDTに類似するが、阻害の程度は軽度。ただし、薬剤耐性が生じ易いのが欠点
中毒症状:
動作不安定、協同運動失調、衰弱、麻痺、スパーリング行動、攻撃的行動、刺激敏感、震顫、運動量増加、痙攣、舞踏病様症状、流涎過多等
ヒト・生態系影響:
昆虫・両生類・爬虫類には強力に作用するが、哺乳類・鳥類の受容体に対する影響は弱く、安全性は高いと考えられている。

農薬の安全性を確保するための毒性試験

1. 急性毒性試験（経口、経皮、吸入）: ラット	11. 遺伝毒性試験:微生物、マウス
	12. 繁殖毒性試験:ラット
2. 刺激性試験（皮膚、眼）: ラット、ウサギ	13. 催奇形性試験:ラット、ウサギ
3. 皮膚感作性試験:モルモット	14. 生体機能影響試験（薬理試験）: 日本のみ
4. 免疫毒性試験:必要に応じ実施	15. 代謝試験（動物、植物）
5. 神経毒性試験（急性、90日）:ラット	16. 水中分解試験
6. 発達神経毒性試験:ラット（EPA/OECD）	17. 水産動植物影響試験／有用生物影響試験
7. 遅発性神経毒性試験:ニワトリ	18. 農薬の性状・安定性・分解試験
8. 90日反復経口投与試験:ラット、イヌ	19. 水質汚濁試験
9. 1ヵ年慢性毒性試験:ラット、イヌ	20. 残留試験（農作物、土壌）
10. 長期発癌性試験:ラット、マウス	

現場に役立つ水稲病害の防除ついて

現場に役立つ病害虫・雑草診断は、水稲害虫の防除について、平井一男先生から、水稲害虫に関する最近のニュース、平坦地の広域水田、中山間地の水田、西南暖地の水田における害虫の発生の特徴と防除についてグラフやスライドを用い講義して頂いた。

1. 水稲害虫に関する最近のニュース
   斑点米カメムシ類
   フタオビコヤガの多発地域
   ヒメトビウンカの飛来確認(推察)
   坪枯れ＊飛来性ウンカ類の殺虫剤感受性低下

2. 平坦地の広域水田
   育苗箱施薬(無施薬地域)・・・幼苗期の保護
   除草剤(無施薬地域)　・・・水稲初期の管理
   (後期防除)(カメムシ防除)・・後期の保護

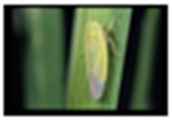
3. 中山間地の水田
   育苗箱施薬
   除草剤
   後期防除(カメムシ防除)・・・後期の保護

4. 西南暖地
   育苗箱施薬
   除草剤
   後期防除(カメムシ防除、ウンカ、コブノメイガ防除)
   殺虫剤感受性低下

5. 長期残効性薬剤ー養蜂(ミツバチ)

近年、西南暖地を中心に発生が増加傾向にあるウンカ・ヨコバエ類に対して、生態と防除について分かりやすく講義して頂いた。

ウンカ・ヨコバイ類の種類と特徴

	吸汁害	ウイルス	抵抗性	発生
トビイロウンカ	あり	イネグラッソースタント病 (黄化・萎縮症状)	ネオニコチノイド 系統の一部薬剤	飛来のみ 越冬不可
セジロウンカ	あり	イネ南方 黒すじ萎縮病	フェニルピラゾール 系統の一部薬剤	飛来のみ 越冬不可
ヒメトビウンカ	あり	イネ縞葉枯病	ネオニコチノイド及び フェニルピラゾール 系統の一部薬剤	飛来及び 越冬も可能
ツマグロヨコバイ 	あり	萎縮病 黄萎病	感受性低下 フェニルピラゾール系 に効かないタイプ	越冬

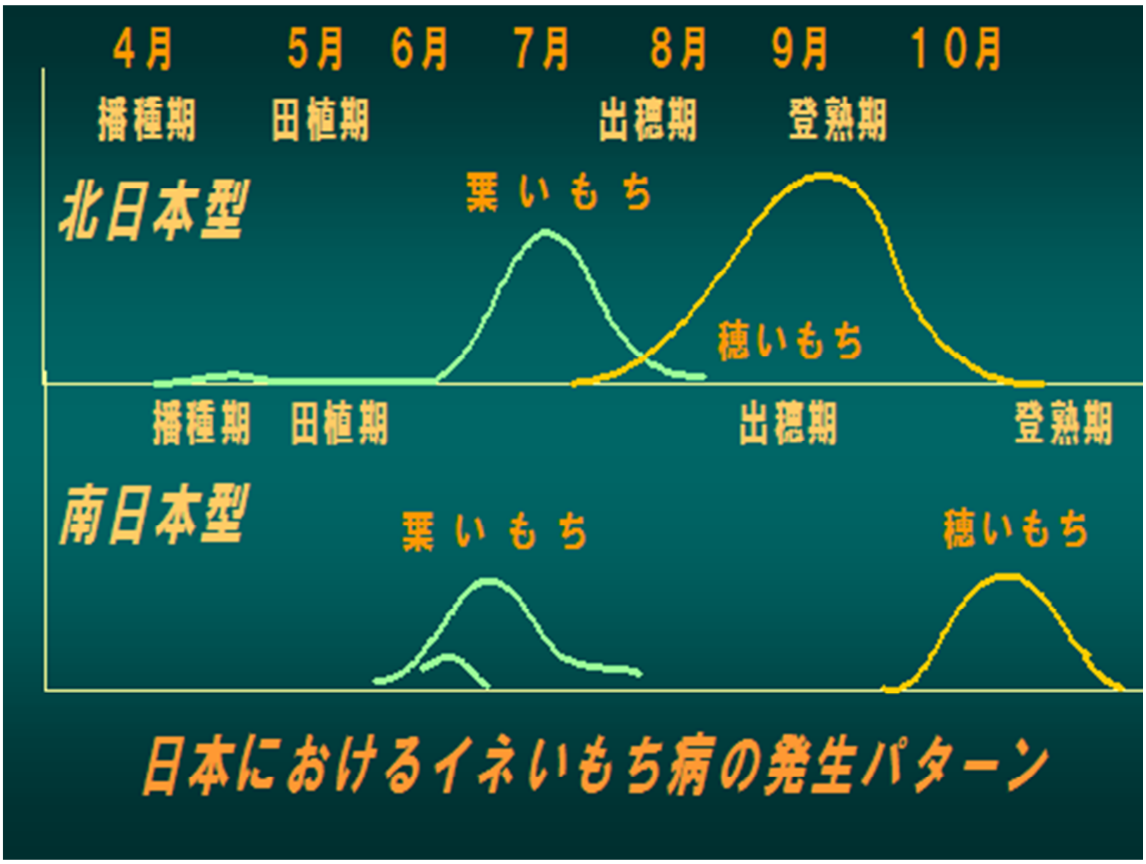
水田病害と防除について

水田病害と防除については、（独）国際協力機構筑波国際センターの小泉信三先生から、水稲病害の種類、育苗期の病害と防除、本田期の病害の発生、生態、防除について、効率的な薬剤防除について詳しい病兆のスライドや発生から防除適期までの詳しい解説で講義して頂いた。

表　我が国で発生するイネの病気

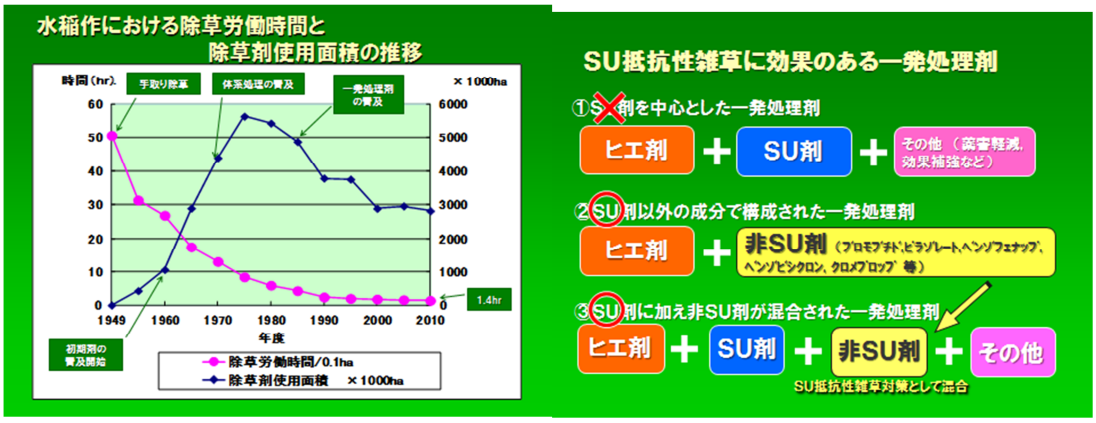
病原体の種類	病気の数
ウイルス	8
ファイトプラズマ	1
細菌（バクテリア）	8
糸状菌（カビ）	75
計	92
その他	20
合計	112

日本植物病名目録（日本植物病理学会編）



水稲雑草と防除について

水稲雑草と防除については、公益財団法人植物調節剤研究協会の橋本仁一先生から、「水稲雑草と防除のこれまで」、「現在水稲で問題になっている雑草にはどんなものがあるか」、「難防除雑草はどのようにして問題化してきたか」、「問題雑草の防除方法について」等について具体的な事例や除草剤名を上げて詳しく講義して頂いた。また、研修生からも沢山の質問が出された。

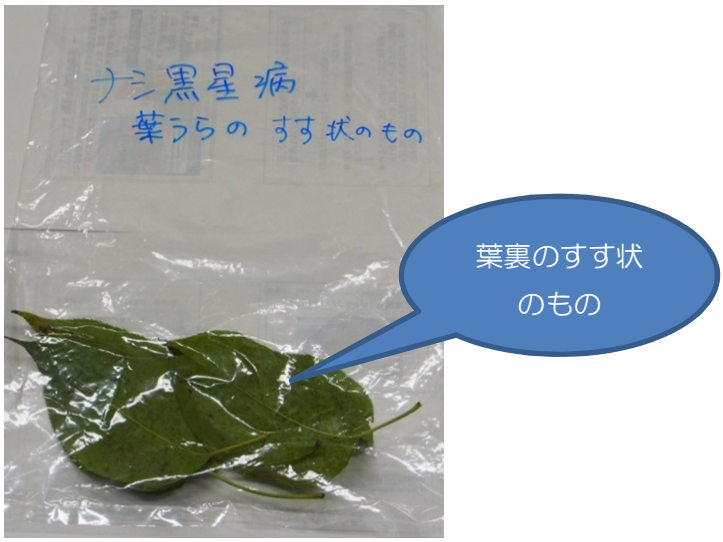


果樹害虫と防除について

果樹害虫と防除については、（独）農研機構果樹研究所の井原史雄先生から、「果樹害虫について」、「環境保全型防除技術について」、「最近の研究から土着天敵利用について」具体的に果樹害虫の見本をご持参頂き、分かりやすくご講義頂いた。

果樹病害と防除について

果樹病害と防除については、（独）農研機構果樹研究所の中畝良二先生から「果樹をめぐる情勢」、「果樹病害の種類」「果樹病害の発生要因と防除」、「最近、果樹で問題となっている病害」について、つくばから病害見本をお持ちいただき、とかく退屈になりがちな講義が大変楽しく好評であった。



ナシの黒斑病　　ナシの黒星病

現場に役立つ害虫診断について

現場に役立つ害虫診断については、神奈川県農業技術センターかながわ農業アカデミーの鈴木誠先生から、昆虫とは地球上で最も繁栄している生物で、極めて多様性に富み、未知の種が沢山残されている。実際は３０００万から５０００万種存在するが、防除対象害虫はそんなに多くないので、自分の県の病害虫防除所が防除対象としている害虫をまず覚えよう。そして、私はこのように害虫診断をしていますと興味深いお話を交えてご講義頂いた。鈴木先生の大変ユニークな講義は大変面白かった。

私の病害虫診断

- ◆まずは調査対象害虫を憶えよう
- ◆時間があれば図鑑、文献を見よう
- ◆先輩、同僚に聞こう
- ◆ネットの活用（信頼できるサイトでチェック）
- ◆良く観察しよう
- ◆他県の特殊報を定期的にチェック
- ◆飼育してみよう
- ◆農林有害動物・昆虫名鑑の逆引き
- ◆「病害虫情報」をチェック

病害虫診断のポイント

1. 栽培状況の把握
   耕種概要、栽培環境は？
2. 間違えやすい症状
   生理障害、薬害でないか？
3. 病害虫の診断
   - ・病害虫の種類と被害状況
   - ・観察（目で見る、においを嗅ぐ等）

現場での即決が大事！！

農家は今困っているから、質問する

- ◆虫か？　病気か？　生理障害か？　気象災害か？
- ◆虫なら、「目」まで、できたら「科」までの判断を
- ◆病害虫雑草防除指導指針を見ながら、処方箋を出す
- ◆詳しい診断・同定は、帰ってから

修了試験

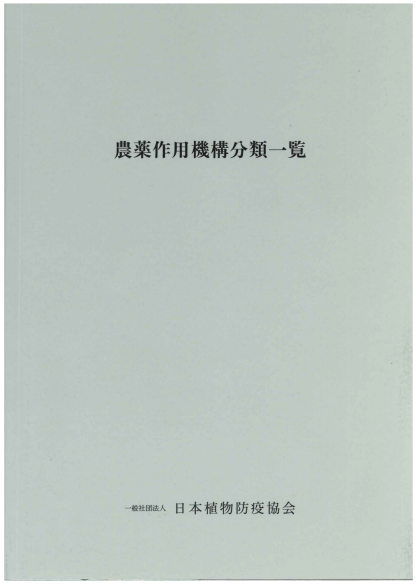
試験時間は１時間、全部で３３問出題。採点は農薬の毒性関係問題を一題４点とし、その他３２題は１問３点とし、１００点満点とした。また、合格基準は７０点以上とした。全農薬は最終目標を植物の病害虫・雑草の防除方法について、お医者さんのような「処方箋」の書ける農薬コンサルタントリーダーを育成したいと考えており、長い道のりと思いますが、今年が第一歩と考え前進中です。（M）

お知らせ

【新刊紹介】

１．農薬製剤作用機構の分類一覧

（一社）日本植物防疫協会は、「農薬作用機構分類一覧」（定価９４５円）Ａ４版 117 頁を刊行した。農薬の抵抗性対策を行う上で重要となる農薬製剤の作用機構分類を明らかにし、同一系統の農薬の連用を避けて防除を実施するうえで重要な資料と位置づけられる。



従来、有効成分ごとの作用機構分類は公表されているが、個々の製剤の作用機構分類が分かる資料は無かった。　また、薬剤の抵抗性を理解するうえで参考となる殺虫剤抵抗性及び殺菌剤抵抗性に関する解説を収録しており、薬剤抵抗性の入門書としても活用できる。全国農薬協同組合では各組合員には１冊、安全協で買い上げ配布することにしております。

● GLOBAL GAP 日本大会のお知らせ

【GLOBALG.A.P. 2013ツアー JAPAN】
－GLOBALG.A.P.日本大会－

日時　　２０１３年１１月２９日（金）～３０日（土）
開催地　　宮崎県宮崎市　シーガイアコンベンションセンター

ツアー運営　GLOBALG.A.P. 事務局 c/o FoodPLUS GmbH
GLOBALG.A.P. NTWG – Japan（日本における GLOBALG.A.P.の技術作業部会）

主催　　GLOBALGAP 協議会

協力　　日本生産者 GAP 協会
後援　　宮崎県・宮崎大学・ＪＥＴＲＯ・ＪＡ宮崎経済連・宮崎日日新聞社・UMK テレビ宮崎・宮崎銀行

＜ツアーのねらい＞
各国・各地域における GLOBALG.A.P.の実践例や新しいプログラム、及び成功例を共有して、国際標準の GAP を理解し、我が国における取り組みに資すること

＜GLOBALG.A.P.とは＞
GLOBALG.A.P.とは、ロシアや中国を含む世界 112 か国で実践されている適正農業規範の世界標準であり、農業生産や農作物の取り扱いにおける安全管理手法、労働安全、更には「持続可能な農業」を目指す我が国の環境保全型農業実践の為に満たすべき基準が、具体的に定められたものです

＜概要＞
今回日本では、国の農産物輸出戦略を見据え、以下に焦点を当てます
1. 日本における GAP の実情と課題
2. 日本における GAP の普及と指導体制
3. 農産物輸出と GLOBALG.A.P.

ダリア（英語: dahlia、学名：*Dahlia*　和名：天竺牡丹）

ダリアの名はスウェーデンの植物学者のアンデシュ・ダール (Anders Dahl) にちなむ。

原産地はメキシコ、グアテマラの中米で、日本には 1842 年（天保 13 年）にオランダ人によってもたらされた。

ダリアは、メキシコからグアテマラにおよそ 15 種が分布する球根植物で、現在、日本で親しまれているのは、野生種を掛け合わせて作られた園芸品種群です。

非常に多くの品種があり、花の形や大きさなどで細かく分類されています。

ダリアは大輪種の豪華さ、小輪種の愛らしさ、様々な花色や形などその選択肢の多さが魅力の一つです。

園芸品種の先祖となる野生種には高地に自生するものが多く、やや暑さに弱いのがネックです。初夏に一番花が咲いた後、夏は花が咲き止んだり、花色が鈍ることがある。冷涼地や、平地でも気温の下がる秋になると、再び冴えた色の花を咲かせます。ダリアの花はこの時期が一番と近所の花屋さんが言っておりました。また、この時期のダイアの花色は非常に豊富で青以外はほぼ揃っている。おもしろいものに、最近では、黒に近い濃紫色の花を咲かせるもの等があります。日本では春に球根を植え付けて夏から秋に花を楽しむのが一般的ですが、タネから育てられる品種もたくさんあり、春にタネをまくとその年の夏から秋に花を楽しめます。花後は茎葉が枯れて地中に球根が残ります。

【花言葉のエピソード】

１８世紀後半にダリアがメキシコからヨーロッパにもたらされると、上流階級でダリアブームがおきました。ナポレオン一世の皇后ジョゼフィーヌもダリアが大好きで、当時まだ珍しかったダリアを美しく咲かせてはパーティを開いて自慢をしていたそうです。

ダリアが大好きのジョセフィーヌは誰が欲しがっても、ダリアの球根を与えようとしなかったものの、とうとう侍女がジョセフィーヌのダリアを盗み、自分の庭で見事に咲かせたそうです。そのことを知ったジョセフィーヌは、途端にダリア栽培への情熱を失ってしまったとか。花言葉の**「移り気」**はそんなジョセフィーヌの心を表したものと言われています。（M）

花言葉：移り気